様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：１３８０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｈ０１２５０

研究課題名（和文）言語・メディア・文化を横断するアダプテーションの総合的研究

研究課題名（英文）Integrated research on adaptation across language, media, and culture

研究代表者
今野　喜和人（KONNO, KIWAHITO）

静岡大学・人文社会科学部・名誉教授

研究者番号：７０１９５９１５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　9,400,000円

研究成果の概要（和文）：かつて原作（オリジナル）の劣化したコピーとして低い地位が与えられがちであった「アダプテーション」（「翻案」「二次創作」など）は、文学、映画、演劇その他の媒体においてすぐれて現代的な創造行為として脚光を浴びつつある。本研究では、従来からある小説の映画化に関する研究だけでなく、サブカルチャーも含めて対象をできる限り広げることに留意し、グローバル化やIT革命によって言語、メディア、文化の境界が消失する「ポストメディア」とも呼ばれる現代におけるアダプテーションの諸相を、理論的枠組みや法律的議論も含めて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
アダプテーションの諸相を言語、メディアを超えて多角的・重層的に分析したことで、アダプテーションのメカニズム全体に見られる共通性と、メディアや文化による差異が明らかになった。また、現代において実際に創作に関わる詩人・作家たち――吉増剛造、関口涼子、平野啓一郎の各氏――を迎えて、研究者だけでなく学生や一般市民に公開した講演会・研究会を開催し、アダプテーション研究の意義を社会的に認知してもらうことができた。

研究成果の概要（英文）：Adaptation, which in the past tended to be given a low status as a degraded copy of the original work, is now being highlighted as a contemporary creative act in literature, film, theater, and other media. In this study, we not only focused on the traditional research on film adaptations of novels, but also on the various aspects of adaptation including examples of subculture in this "post-media" era, where the boundaries of language, media, and culture are disappearing due to globalization and the IT revolution. Theoretical frameworks and legal arguments were also included.

研究分野：比較文学文化

キーワード：アダプテーション　比較文学文化　翻訳翻案

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

かつて原作（オリジナル）の劣化したコピーとして低い地位が与えられがちであった「アダプテーション」（「翻案」「二次創作」など）は、文学、映画、演劇その他の媒体においてすぐれて現代的な創造行為として脚光を浴びつつある。そこにはグローバル化や IT 革命によって言語、メディア、文化の境界が消失する 「ポストメディア」とも呼ばれる時代背景があり、広義の「アダプテーション」が日常生活の中にも浸透して、内外での研究も盛んに行われている。しかし対象となる範囲があまりにも広いため、分析が欠けていたり、理論化が満足に行われていなかったりすることがままある。本研究メンバーの大半は過去数次の科学研究費を用いた研究において、広義の「翻訳」を対象として研究を進めてきたが、これをさらに拡大してアダプテーション現象の全体像把握を目指し、著作権問題など、これまであまり注目してこなかった法律的議論も含めるため、新たなメンバーを加えて、研究を開始した。

２．研究の目的

本研究の目的は､現代社会において極めて重要な役割を持つようになった｢アダプテーション｣がどのような広がりと、どのようなメカニズムで実践されているかを、できる限り広い領域設定と、できる限り多角的･重層的な視点からトータルに捉え直すことにある。そのため、時代、国、文化、言語、メディアの境を超えて、可能な限り多くの例を分析対象とすると共に、哲学的・言語学的・法律学的な議論も含めて理論的考察を行い、この両者の往還によって、「アダプテーション」をキーワードとした新たな詩学の形成を目指した。

３．研究の方法

上に述べたように、グローバルな規模で同時発生的に、かつオール（もしくはノン）・ジャンル的に生じているアダプテーション現象を総体として捉えるには、能うかぎり多くの言語とカテゴリーにわたる、能うかぎり多くの作家・作品とその周辺事象を視野に入れる必要がある。また､現代の特殊性を明らかにするためにも､過去の事象の分析をおろそかにすることはできない。一方でこれらの分析を支え、またその分析から新たに修正が加えられるべき理論面の考察も必要である。そのため、本研究では専門とする言語、時代、領域、所属学会、さらに母語も多様な 15 名のメンバーからなる組織を形成した。研究開始後、新型コロナ感染症の流行によって海外調査がほぼ不可能になったため、当初のテーマ設定を微修正したメンバーもいたが、それらの変更を反映した最終的な役割分担はおおよそ以下のようになる。

	氏名	役割分担
代表者	今野 喜和人	Tarot におけるアダプテーション研究ならびに研究全体の統括・成果の発信
分担者	大薗 正彦	アダプテーションにおける言語的バリエーションの認知言語学的分析
分担者	大原 志麻	スペインにおける歴史事象についてのメディア間のアダプテーション研究
分担者	桑島 道夫	現代中国における言語・メディア・文化を横断するアダプテーション研究
分担者	田村 充正	海外で映画化された日本文学･日本文学のアダプテーション研究
分担者	中村 ともえ	日本近現代文学における演劇・映画への翻案の事例研究
分担者	南 富鎮	張赫宙を中心とする日韓のアダプテーションをめぐる研究
分担者	花方 寿行	文学と映像、演劇間のアダプテーション研究
分担者	原田 伸一朗	アダプテーションにおける知的財産権の課題､日本発コンテンツの海外展開における法的・倫理的課題の分析
分担者	安永 愛	ポール・ヴァレリーにおける受容・およびポール・ヴァレリーの受容に関する研究
分担者	山内 功一郎	エズラ・パウンドによる翻訳・アダプテーションおよび創作の研究

分担者	ローベル 柊子 （田中柊子）	幻想文学・ファンタジー文学のアダプテーション分析、ファンタジー文学の日本における受容研究
分担者	渡邊 英理	中上健次文学のアダプテーションからのポストメディア時代／情動資本主義下の日本文化／日本社会の研究
分担者	CORBEIL Steve	大正と昭和の探偵小説・推理小説の映画化の研究
分担者	RAUBER Laurent	ファンタジーにおけるアダプテーション研究―イース伝説をめぐって

このように、所属も居住地も多様なメンバーを集めたため、年に数度はメンバー全体が集まる研究会を開催して、各自の発表とその後の議論を随時行っていく予定であった。しかし新型コロナ感染症流行によって対面での研究会が不可能になったため、その後はZoomを利用した定期的なオンライン研究会に切り替えた。その分、制約も多くなったが、逆に国外を含む遠隔地からの研究会参加が容易になり、メンバーによる発表以外に、他大学の研究者および創作家を招いたオンライン研究会（国際研究集会も含む）も行うことが可能になった。これらの機会を通じて互いの知見を深め、各自の学会や所属大学紀要等での発表を行う他、メンバーの大半の研究を集めた論集も（雑誌『翻訳の文化／文化の翻訳』別冊の形で）電子出版した。

４．研究成果

上に述べたように、メンバーの研究領域と方法は多種多様であり、一方で重なる部分も多々あるため、個人別ではなく、いくつかのテーマに分けて、成果をまとめて論じる。

（1）言語テクストから言語テクストへのアダプテーション

古代以来、口頭によるか書物によるかを問わず、様々なテクストが伝承され、数多くのモチーフを形成して人々の記憶に刻まれてきた。それらは実際的影響によるか人間の普遍的性質によるかにかかわらず、数多くの不変的なテーマ・人物像・プロットを作り上げている。後世の作家たちはそれらを模倣・吸収し、また改変することで新たな物語を生み出し、一方で受容者は記憶にある物語と新たな物語を意識的・無意識的に対照することで文学的感興を得る。こうしたアダプテーションの基本的性質は、現代文学の生成と受容を研究する上でも避けることのできない視点である。本研究では、特に神話的なモチーフと現代文学をめぐる研究として、山内によるエズラ・パウンド研究（『オデュッセイア』）、渡邊による中上健次論（オイディプス神話）、桑島による闇連科の『四署』翻訳と研究（旧約聖書）などが生まれた。他に、南による張赫宙研究、安永によるヴァレリー研究では、作家本人の変容と時代の動向によるテクストの改稿問題が扱われた。これらの研究によって、以下の項目のような言語テクストの枠を超えたアダプテーションを支える基本的な枠組みを整理することができた。

（2）メディア間アダプテーション

現代の文学芸術研究においてアダプテーションの語は頻繁に語られるが、なかでも文学の映画化に関する研究が数多くある。実際、現在の映画やテレビドラマでは小説や漫画などを原作としない作品を探すのが難しいほどの状況にあり、言語テクストの映像化問題はアダプテーションを語る上で避けて通れない。そのため、本研究メンバーも何名かがこの主題にアプローチした。田村は川端康成『眠れる美女』の日本・ドイツ・オーストリアにおける映画化、花方はガストン・ルルー『オペラ座の怪人』の映画化・ミュージカル化、中村は『源氏物語』および谷崎潤一郎『細雪』の映画化・演劇化等について、それぞれの時代、社会、道徳に応じて大胆に焦点化されていくプロセスを論じた。また、大原は17世紀スペインで起きた魔女狩り事件の史実と、これを基にした映画『スガラムルディの魔女』の関係を論じている。これらの地域・言語・メディアの境を超越した論考によって、「原作」への忠実度や差異の単純なカタログ化に留まらないアダプテーション研究の広範な可能性を確認することができた。

（3）サブカルチャーにおけるアダプテーション

現代において、アダプテーションが最も盛んに行われている領域としてサブカルチャーを挙げることができるだろう。それはグローバル化やIT革命によって、プロフェッショナリズムとアマチュアリズムの区別が消滅し、作品創造が一部の職業作家に限定されず、誰もが受身の読者・観客から批評家、さらに創造者の立場に変化しうる「ポストメディア時代」がもたらした現象とも言えそうである。本研究でも原田のポップカルチャー全般、ローラン柊子の少女漫画・アニメ、ローラン・ローベルのテレビゲーム、コルベイユのRPG、今野のタロットカードなど、多種多様な研究対象がカバーされた。これらの分野のアダプテーションには古典的な「翻案」と同じメカニズムが働いている部分もあるが、一方で境界の消失した制作者と受容者・ファンとの相互作用による新たな創造活動が生まれつつあることを示す多数の例が見られる。そこには文化的差異も見られ、例えばクトゥルフ神話のアダプテーションを研究したコルベイユは日本とアメリカの違いについて、ドゥルーズによる「ツリー」と「リゾーム」のモデルを用いて分析することで、比較文化的な視点も取り入れている。

（4）理論的考察

上記の様々な領域におけるアダプテーションを支える理論としては、メンバー中唯一の言語

学者である大薗が認知言語学における〈事態把握〉（construal）という考え方を援用しつつ、人の認知能力との関わりにおいて言語学の立場から分析した。言語テクスト間のアダプテーションに比べて、言語以外のメディア（映画、演劇、アニメ、漫画、さらには絵画、写真、音楽まで）との越境アダプテーションにおいては、言語化という縛りがなくなる分、より〈新しい価値〉の発見・認識という挑発的な意味合いを帯びる可能性が広がる。一方、原田はアダプテーションにおいて避けては通れない原作改変（実写化等）、キャラクターの性格・イメージ等の改変が提起する課題について、著作権・著作者人格権をはじめとする法学的な視角のみならず、分析哲学・美学、メディア論、ファン・オーディエンス研究等をも参照した学際的なアプローチにより研究をおこなった。

以上、現代に広がるアダプテーションについての多角的・重層的な考察は、既成の作品を論じるために有効に作用すると共に、創作活動そのものの無意識的メカニズムにも光を当てることとなった。それによってアダプテーション全体に共通する性質があると共に、国、ジャンル、メディアによって微妙な差異が存在することも明らかになった。さらに、こうした知見を基にして、実際の創作者本人による解説および研究メンバーとの議論を行うことができたことは有意義であった、具体的には詩人の吉増剛造、同じく詩人で翻訳者でもある関口涼子、作家の平野啓一郎の各氏を招き（オンラインを含む）、一般公開の研究会として学生や市民をも聴衆としたことは、研究成果の公開という点で、社会的意義も大きかったと思われる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計40件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　32件）

１．著者名 山内 功一郎	４．巻 18別冊
２．論文標題 「詩篇１」における逆流現象 ： 教師としての詩人エズラ・パウンド	５．発行年 2023年
３．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	６．最初と最後の頁 5～17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029532	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 南 富鎮	４．巻 18別冊
２．論文標題 張赫宙主要作品の編集からみる諸問題 ： 主題・校訂・検閲などをめぐって	５．発行年 2023年
３．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	６．最初と最後の頁 19～34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029533	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田村 充正	４．巻 18別冊
２．論文標題 二次創作/再創造としての映画 ： 川端康成「眠れる美女」試論	５．発行年 2023年
３．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	６．最初と最後の頁 41～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029535	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中村 ともえ	４．巻 18別冊
２．論文標題 雪子はいつ結婚するのか ： 谷崎潤一郎『細雪』と映画・演劇	５．発行年 2023年
３．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	６．最初と最後の頁 51～63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029536	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 花方 寿行	4．巻 18別冊
2．論文標題 『オペラ座の怪人』のアダプテーション ： ファントムとは何者か(1)	5．発行年 2023年
3．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	6．最初と最後の頁 65～76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029537	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Corbeil Steve	4．巻 18別冊
2．論文標題 Exploring Strategies of Reappropriation Related to the Cthulhu Mythos: A Comparison of Two Competing Models of Adaptation	5．発行年 2023年
3．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	6．最初と最後の頁 77～85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029538	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Rauber Shuko	4．巻 18別冊
2．論文標題 Reception et developpement de la fantasy au Japon	5．発行年 2023年
3．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	6．最初と最後の頁 87～97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029539	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 ローベル ロラン	4．巻 18別冊
2．論文標題 『イース』I・IIのインスピレーションをめぐって	5．発行年 2023年
3．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	6．最初と最後の頁 99～116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029540	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 原田 伸一朗	4．巻 18別冊
2．論文標題 キャラクターの名誉権・同一性保持権 ： キャラディス・キャラ改変からのキャラクターの保護	5．発行年 2023年
3．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	6．最初と最後の頁 131～142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029542	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大薗 正彦	4．巻 18別冊
2．論文標題 ことばによる「捉え」とアダプテーション	5．発行年 2023年
3．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	6．最初と最後の頁 143～153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029543	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 安永 愛	4．巻 73
2．論文標題 La presence valeryenne : Les journees ≪ Paul Valery et la Mediterranee ≫	5．発行年 2022年
3．雑誌名 人文論集 = Studies in humanities	6．最初と最後の頁 1～24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029090	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 今野喜和人	4．巻 53-14
2．論文標題 フランスのタロティストたち――クール・ド・ジェブランからヴィルトまで	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ユリイカ	6．最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊達聖伸、関口涼子、スティーヴ・コルベイユ	4．巻 17
2．論文標題 3.11に考える「翻訳」という行為（静岡大学翻訳文化研究会主催特別講演会記録）	5．発行年 2022年
3．雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	6．最初と最後の頁 1-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00028826	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 大原志麻	4．巻 15
2．論文標題 スガラムルディの魔女(1608-1610年）－史実とアレックス・デ・ラ・イグレシアのアダプテーション―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 翻訳の文化／文化の翻訳	6．最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00027396	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計22件（うち招待講演　13件／うち国際学会　16件）

1．発表者名 中村 ともえ
2．発表標題 谷崎潤一郎と平安朝物語―起点としての『栄花物語』
3．学会等名 全国大学国語国文学会第125回大会（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 渡邊英理
2．発表標題 中上健次と「メロドラマ的想像力」
3．学会等名 日本近代文学会秋季大会（国際学会）
4．発表年 2021年

１．発表者名 Corbeil Steve
２．発表標題 Traduction, communication interculturelle et education: la representation du maitre ideal de Jacques Ranciere a Philippe Falardeau
３．学会等名 Association corenne des etudes quebecoises (ACEQ)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 花方寿行
２．発表標題 El boom de Kimetsu-no Yaiba o la imagen de oni en la cultura tradicional japonesa
３．学会等名 ペルー・カトリカ大学東洋研究所主催オンライン講座（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 渡邊英理
２．発表標題 Nakagami Kenji as “Contemporary Literature”
３．学会等名 アメリカ・NY　コロンビア大学　Weatherhead East Asian Institute 70th Anniversary Event International Workshop: New Directions in Japanese Studies（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 ローベル柊子
２．発表標題 La reception et le developpement du genre de la fantasy au Japon
３．学会等名 ICLA（国際比較文学会）第22回大会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 南富鎮
２．発表標題 文学思想における退行と増殖／分断と融合―在日30年の現状報告
３．学会等名 慶北大学校国語国文学科ｂｋ事業団第6回国際学術大会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 ローベル・ロラン
２．発表標題 Fantasy et mondes imaginaires : l ’ enseignement d ’ Ys
３．学会等名 ICLA（国際比較文学会）第22回大会（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計11件

１．著者名 渡邊英理	４．発行年 2022年
２．出版社 インスクリプト	５．総ページ数 520
３．書名 中上健次論	

１．著者名 アレハンドロ・ホドロフスキー著、花方寿行（訳および解説）	４．発行年 2021年
２．出版社 国書刊行会	５．総ページ数 460
３．書名 サイコマジック	

1．著者名 H. Miyashita, Y. Fujinawa, S. Tanaka, E. Konig, P. Pardeshi, A. Malchukov, H. Wegener, M. Ozono, H. Yuasa, T. Oya, M. Kienpointer, H. Weinberger, Y. Muroi, M. Shibatani, M. L. Kotin, S. Kameyama, A. Redder, J. Okamoto, W. Abraham, Y. Ikegami, et al.	4．発行年 2020年
2．出版社 Stauffenburg Verlag	5．総ページ数 471
3．書名 Form, Struktur und Bedeutung	

1．著者名 中村ともえ	4．発行年 2019年
2．出版社 青簡舎	5．総ページ数 380
3．書名 谷崎潤一郎論　近代小説の条件	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	大薗　正彦 (Ozono Masahiko) (10294357)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	安永　愛 (Yasunaga Ai) (10313917)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	山内　功一郎 (Yamauchi Koichiro) (20313918)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	ローベル　柊子（田中柊子） (Rauber Shuko) (20635502)	東洋大学・経済学部・准教授 (32663)	
研究分担者	田村　充正 (Tamura Mitsumasa) (30262786)	静岡大学・人文社会科学部・名誉教授 (13801)	
研究分担者	南　富鎮 (Nam Bujin) (30362180)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	渡邊　英理 (Watanabe Eri) (50633567)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	花方　寿行 (Hanagata Kazuyuki) (70334951)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	中村　ともえ (Nakamura Tomoe) (70580637)	静岡大学・教育学部・准教授 (13801)	
研究分担者	ＲＡＵＢＥＲ　ＬＡＵＲＥＮＴ (Rauber Laurent) (70768134)	慶應義塾大学・商学部（日吉）・訪問講師（招聘） (32612)	
研究分担者	桑島　道夫 (Kuwajima Michio) (80293588)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	Ｃｏｒｂｅｉｌ　Ｓｔｅｖｅ (Corbeil Steve) (80469147)	聖心女子大学・現代教養学部・准教授 (32631)	
研究分担者	大原　志麻 (Ohara Shima) (80515411)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	原田　伸一朗 (Harata Shinichiro) (90547944)	静岡大学・情報学部・准教授 (13801)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関